

組織・器官系の構造と機能 I

Morphology and Function of Tissue and Organs I

単位数：5 単位

○内尾祐司 教授：整形外科学
馬庭壯吉 教授：リハビリテーション医学
尾林栄治 准教授：病態生化学
藤谷昌司 教授：神経科学
横田茂文 准教授：神経科学
奥井達雄 准教授：歯科口腔外科学

1. 科目の教育方針

組織・器官系の構造と機能 I の講義・演習では、まず運動器の構造や機能、ならびに運動器の機能制御に関わる神経機構について学ぶ。さらに、運動器疾患（変性や損傷）の病態に関する生物学的・生体力学的知識や技術について学ぶとともに、再生医学も含めた治療法ならびに病態論から導き出される予防法について学ぶ。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

- 1) 運動器の構造と機能、およびその制御機構について、生物学・生体力学的見地から理解する。
- 2) 運動器疾患の治療法と予防法について理解する。

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) 運動器の構造と機能の特異性や特徴を説明できる。
- 2) 運動器の制御に関わる神経機構を説明できる。
- 3) 運動器疾患の病態を生物学的・生体力学的に解析できる。
- 4) 運動器疾患の治療法と予防法について、生物学的・生体力学的見地から説明できる。

3. 教育の方法、進め方

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。講義は主としてオンラインで行うこととし、Teams 等によるライブ配信を中心にオンデマンドを併用する。講義方法に変更（オンライン⇒対面等）がある場合には都度、連絡を行う。

4. 成績評価の方法

すべての講義と演習が終わった後、規定の出席率（2/3 以上）を満たした学生に対し、課題を呈示し、レポートの提出等を指示する。そのレポート等を行動目標の達成度を主眼に評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

- 1) 標準整形外科学：寺山和雄，辻 陽雄編、医学書院(2002)
- 2) 整形外科クルズス：津山直一編、南江堂(2003)
- 3) 今日の整形外科治療指針：二ノ宮節夫、富士川恭輔編、医学書院(2004)
- 4) Orthopaedic Pathology 3rd Edition: Peter G Bullough, Mosby-Wolfe (1997)
- 5) Bone and Joint Disorders: Francis A Burgener and Martti Korman, Thieme (1997)

6) Gray's Anatomy, S. Standring et al., Churchill Livingstone (2004)

6. 教育内容

回	授業内容	担 当
1	運動器制御の神経機構と疾患 1	藤谷昌司
2	運動器制御の神経機構と疾患 2	藤谷昌司
3	運動器制御の神経機構と疾患 3	藤谷昌司
4	運動器制御の神経機構と疾患 4	藤谷昌司
5	運動器の構造と機能 1	横田茂文
6	運動器の構造と機能 2	横田茂文
7	運動器の構造と機能 3	横田茂文
8	運動器の構造と機能 4	横田茂文
9	運動器・骨関節疾患の病態と治療 1	内尾祐司
10	運動器・骨関節疾患の病態と治療 2	内尾祐司
11	運動器・骨関節疾患の病態と治療 3	馬庭壯吉
12	頭蓋顔面を中心とした骨関連疾患の病態	奥井達雄
13	タンパク質という観点からみた運動器制御 1	尾林栄治
14	タンパク質という観点からみた運動器制御 2	尾林栄治
15	タンパク質という観点からみた運動器制御 3	尾林栄治